人がかわる　地域がかわる

丹生漁協女性部
中　條　明　美

１．地域の概要

私たちの住む美浜町は、福井県の南西部に位置して若狭湾に面し、リアス式海岸特有の美しさと三方五湖の湖沼、河川の清流など海、山、川の変化に富んだ自然景観に恵まれた地域である。

２．漁業の概要

美浜町漁業協同組合は、平成18年に丹生、菅浜、美浜、日向の４漁協が合併し、正組合員396名で、主な漁業は定置網であるが、近年民宿、遊漁案内など兼業者も多く、定置網が地域の漁業の主体となっている。

３．研究グループの組織と運営

私達の女性部は昭和32年に結成し、部員数36名である。昭和35年には町内４漁協女性部（丹生、菅浜、美浜、日向）で連絡協議会を結成し、部員数128名で、役員構成は４漁協女性部の中から、会長１名、副会長１名、会計１名を選出しており、活動によって単位女性部活動と連絡協議会活動に分けている。主な活動は、魚食普及を通じた食育の推進、漁協事業への参加・協力、環境美化の推進、ボランティア活動、ほかのグループとの交流会など、常に新しい情報、知識を得ながら活動に取り組んでいる。

４．研究・実践活動の取組課題選定の動機

私たちの丹生地区では、平成11年から大敷網「丹生丸」新造より、観光定置に取り組んできた。しかし当初は朝４時半に船に乗り、網を揚げたり、とれた魚をさわったりするだけの体験であった。そんな折、平成16年から美浜町では体験型観光の受入組織“若狭美浜はあとふる体験推進協議会”が作られ、漁協が会員となり、この事業に全面的に協力することになったのである。その漁協から、私たち女性部に協力依頼が来た。勿論二つ返事である。女性部の活動の場が広がるのである。

ちなみに、「はあとふる」とは、「愛される美浜」をイメージした美浜の「M」と「ハート」、そして横線が表す海をベースに「発展」という願いが込められています。（図１）

５．研究・実践活動状況及び成果

(1)体験メニューの決定について

美浜町の“はあとふる体験”が決定したが、体験の取組方についてはその地区にゆだねられた。早速、漁協・漁業者・女性部が集まり知恵を出し合った。古いしきたりの漁村では、女性の役割は常に受身であったが、この取組では女性の声を大いに発揮することが出来た。その結果、体験メニューは、「大敷網体験」、「船釣り体験」「養殖エサやり体験」、「食体験」、「波止釣り体験」、「地びき網体験」、「たこ漁体験」、「干物作

り体験」の８種類のメニューが決まった。このうち、私達女性部は、「干物作り体験」と「食体験」の担当を申し出た。

(2)インストラクターの募集と研修について

“はあとふる体験”をはじめた当初は、「船に乗るだけの体験」＋「とれた魚を捌いて食べるという食体験」であった。その捌きの指導に当たるのが、泊まっている宿の部員（民宿のおかみさん）と言うことになるのである。しかし、体験に訪れる観光客の増加に伴い、民宿業と指導者としての両立が困難になってしまった。そこでまた、漁協・漁業者・女性部の三者が集まり、今後の取組方について協議をした結果、インストラクターを募集することになり、その数は、現在30名（うち男性７名）である。

女性部として２つの体験を自ら申し出たからには、 私たちにも意地がある。サアー、どのように取り組もうかと、ワクワク気分４割、申し出はしたけれど本当に大丈夫だろうかと心配６割が脳裏を行き交った。インストラクターに登録されるには講習会に出席し、一般的な基礎知識を習得しなければならなかった。しかし、講習会に参加したことにより、これならば何とかインストラクターが努まりそうだとの自信がついた。

(3)「干物作り体験」と「食体験」

①「干物作り体験」について

インストラクターの出番は、春の修学旅行シーズンである。大勢の生徒さんが美浜町を訪れるが、行程に「体験漁業」が組み込まれている。この時期は、干物作りに適しているので、アジやスルメイカなどの「干物作り体験」をする。

インストラクターを囲んで、簡単な自己紹介をし、作業手順、包丁の扱い方等基本的なことを丁寧に指導する。次にさばいた魚を漬け込む塩水作りをする。それからようやく捌きをし、これを塩水に20～30分漬けた後干し、出来上がった干物は、名前を書いたトレーに並べ、学校宛に発送するのである。

②「食体験」について

食体験では、基本的なことを教えるのは「干物作り体験」と同様であるが、「刺身班」、「焼き魚班」、「味噌汁班」の３班に分かれて体験する。「食体験」は、漁の具合や魚種によって捌く魚は異なるが、基本的には「アジ」などの小魚を１人３～４匹捌く。全員が捌いた後それぞれの作業に入るのである。

この食体験は、「大敷網体験」後は朝食を、「地びき網体験」後は昼食を体験することになる。

これら２つの体験は、必ず「さばき方」の体験をすることになる。特に、包丁を使うことから、ケガをさせてはならないと細心の注意を払う。魚を捌くことはほとんどの生徒が初めてで、内臓を見て「ウワッ、気持ち悪い」、「怖い！！」、「生臭い」等、悲鳴とも思うような声をあげる子、「おもしろーい」と喜ぶ子など大騒ぎである。しかし、インストラクターを始めた当初は、「どうしようか」と焦った私達も、今ではこれくらいでは驚かず、このような生徒こそ教えがいがあり、「魚を見直させるぞ」と熱くなるのである。

作業終盤には、生徒達は実に楽しそうに、生臭いと言っていたくせに「これはいける」、などと「摘み食い」をしているのである。この生徒達の様子は、私たちの疲れを吹き飛ばしてくれる。

作業終了後は、お茶を飲みながら、美浜の伝統料理やアイデア料理を紹介したり、質問

を受けたり、感想を聞いたりするが、これまたみんなとても楽しそうである。勿論インストラクターの私達も楽しく、その上、子供達からたくさんのエネルギーをもらえることが何よりである。

6．波及効果

体験した生徒さんからは、感想文や御礼の手紙が届く。「魚を捌くのは初めてで、１匹目の時はどうしようかと思ったのに、２匹、３匹と捌いていくうちにだんだんと上手に捌けるようになり、たった数匹で上達するんだなと、驚きました」、「生臭いと思っていた魚が、新鮮なであればとても美味しいことがわかり、とても勉強になった」、「魚のはらわたを取る作業など、すごくグロイ作業もたくさんあったけど、全ての作業を終えたときの達成感があり、とても印象に残った」、「家のみんなが本当にあんたが作ったの？と驚きました。でもっても美味しいと言って食べました。」、「インストラクターの人と友達になった気分で体験でき、何かすごく楽しかった」等々紹介し切れません。しかし、体験した生徒達は、「見て、触って、捌いて、加工する」という体験のすばらしさ、新鮮な魚は生臭くなく、とても美味しい等々のことを確実に学んでくれたようである。

次の感想文は、「食体験」前に行う「大敷網体験」のものである。「朝早くから船で海に出て一生懸命網を引いて獲ってくれる魚。小魚一匹、刺身一切れ粗末に出来ないと、強く感じました」。漁業者が、私達が、ジーンと来るような感想文である。また、インストラクターとして、一番幸せを感じる時である。現場に行って体験しなければ決してわからない。生きているものをとって、その命を「いただきます」という言葉で、毎日の食事への感謝の気持ちが生まれてくる。私たちが意図することを、子供達は身をもって感じ、覚えてくれるようだ。福井県女性連では、年間30回余りの「魚が捌ける福井人育成講座」の指導に当たっているが、食育の一環として、必ず「いただきます」を励行している。

平成11年から始めた観光漁業（定置）の最高は、55回・677人の参加者数であった。それが、「はあとふる体験漁業」になり、平成19年には61回・2,348人の参加者数となっている。また、当初は近隣府県の大阪、岐阜であったが、今では愛知、広島からも訪れるようになった。自分で言うのも何ですが、「女性部のインストラクターは、気配りと明るさがあってとても良い」と好評である。

7．今後の課題や計画と問題点

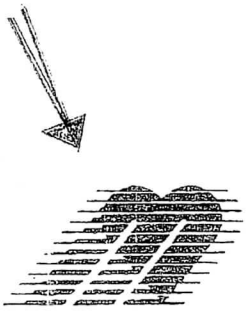
2008年3月20日から３日間、「全国ほんもの体験フォーラムinふくい」が、美浜町で開催される。この催しは、体験型観光の先進地や旅行会社などを招き、受け地の価値の再発見と全国に誇れる“ほんもの体験”の普及のため、その手法等について学ぶとともに、体験型観光の適地として全国に強くアピールする機会とするもので、その全体フォーラムの事例発表を行うことになっている。

今後は、体験に訪れる回数・人数が増加すると思われるが、それに対応できる態勢をとらなければと思っている。また、他県に比べ地元美浜町の生徒の体験が少ないので、今後は全生徒が体験するよう働きかけたい。

私たちインストラクターはまだまだ未熟であるが、生き物の命の大切さ、魚の美味しさ、人との触れあいの温かさ、そして美浜のすばらしさを伝え、美浜を訪れた子供達が「魚が美味しかった、家でも捌いてみよう。又美浜に行ってみたい。」と思えるように、「人がかわる地域がかわる」を合言葉に、今後も楽しみながら携わりたいと思う。

町　章

町名「ミハマ」をカナで表現し、本町の豊かな海岸線を図案化したもので、円からなる構図は、美浜町の円満な将来への発展を意味しています。
（昭和33年1月制定）



シンボルマーク

「愛される美浜」をイメージした美浜の「M」と「ハート」、そして横線が表す海をベースに「発展」という願いが込められています。
（昭和62年12月決定）

平成18年度 くらしのデータ

人　口 11,165人			世帯数 1世帯あたり/ 2.99人
出　生 1ヶ月あたり/ 6.92人	死　亡 1ヶ月あたり/ 9.58人	転　入 1ヶ月あたり/ 27.25人	転　出 1ヶ月あたり/ 32.17人
結　婚 1ヶ月あたり/ 14.08組	離　婚 1ヶ月あたり/ 2.17組	ごみ排出量 1人1ヶ月あたり/ 29.41kg	交通事故 1ヶ月あたり/5.50件
火災発生 1ヶ月あたり/ 0.67件	刑法犯認知件数 1ヶ月あたり/ 3.92件	予　算（H18年度歳出決算） 1人あたり/ 695,959円	町　税（H18年度歳入町税） 1人あたり/ 238,611円

大敷網体験

食体験

地びき網体験

船釣り体験

漁業体験

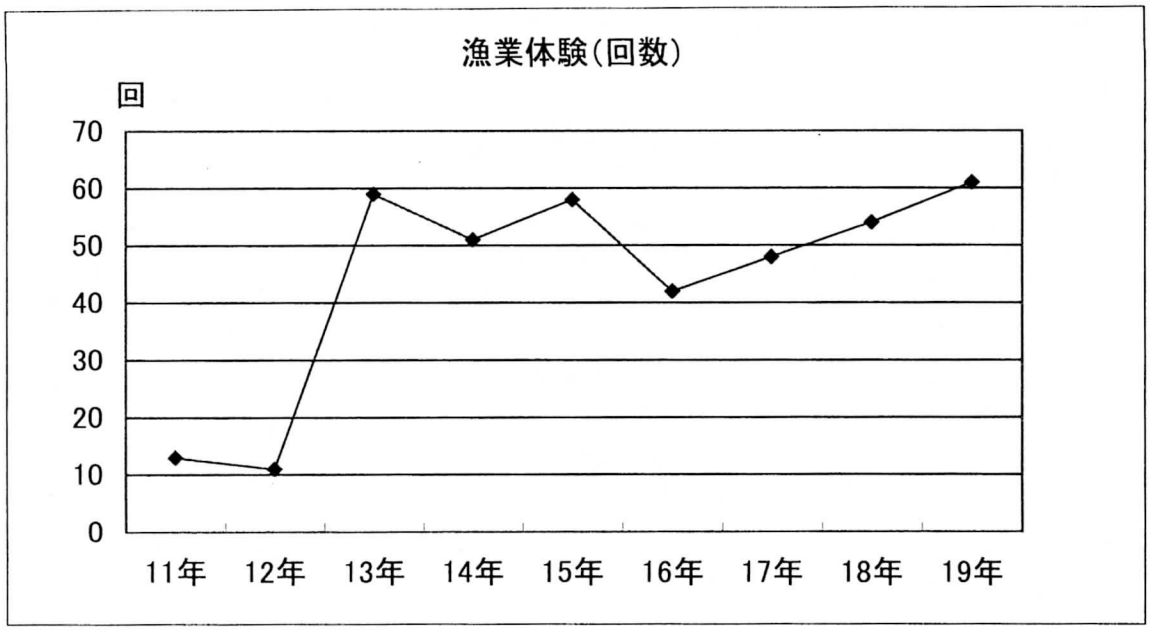
若狭美浜
はあとふる体験

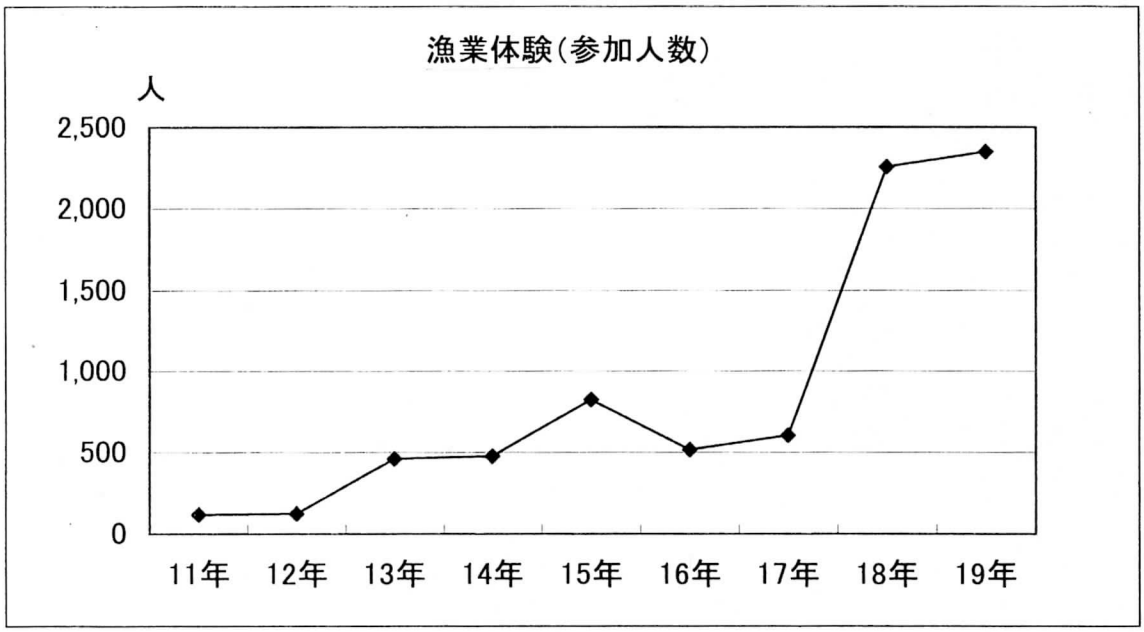
たこ漁体験

養殖エサやり体験

波止釣り体験

干物作り体験


漁業体験(回数)
回
70
60
50
40
30
20
10
0
11年
12年
13年
14年
15年
16年
17年
18年
19年


漁業体験(参加人数)
人
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
11年
12年
13年
14年
15年
16年
17年
18年
19年